

ダイバーシティ推進委員会では、今月から近畿C.P.Aニュースにて「ライフサポーター KAI-GO! シリーズ」と銘打って、「介護」をテーマにした記事を隔月でお送りすることになりました。そこで、初回はこの企画を実施することになった背景や、今後の内容についてご紹介させていただきます。

※ここでの「介護」とは、主に親を対象にした介護を想定して進めさせていただきます。

また介護とはどの段階からを指すのかについて複数の見解があると思いますが、ここでは介護保険の認定を申請するかどうか検討を始める段階から、を指すことにいたします。

今後、上記の枠にこだわらず広く取り上げることと考えておりますので、皆様からのご意見、ご希望やご感想をいただければ幸いです。

### 「介護」をテーマにした連載企画誕生の背景

お気づきの方もいらっしゃると思いますが、ダイバーシティ推進委員会ではすでに今年の3月号から「子育てパパシリーズ」として、「子育て」をテーマにした記事を隔月連載でお送りしております。

実は「介護」と「子育て」は2つで1つのセット企画でして、前者は偶数月、後者は奇数月に連載することにいたしました。

このセット企画の目的は、「働き方や生活スタイルについて、

・時代の変化とともに日本での傾向が年々変化していること、  
・さらに一人一人を見てみれば同じものはないこと  
を知る機会を提供すること」

です。

しかし、「介護」と「子育て」で

## 『ライフサポーター KAI-GO! シリーズ』 第1回 介護をテーマにした連載企画、始めます！

ダイバーシティ推進委員会 委員長 原 繭子

は、この目的について少々違いが存在しています。

まず、「子育て」についてですが、人生のライフイベントの中で「子育て」は今もなお多くの方が経験することです。そして、近年では女性だけでなく男性も当然に携わるライフイベントとして、人々の意識の変化や、行動の変化が年々生じています。その変化をサポートすることは、「公認会計士の仕事や働き方の多様性を目指す」というダイバーシティ推進委員会の考え方にも合致

すると考えた次第です。そしてこの企画ではあえてもう一步踏み込んで、今まで少数派であった男性＝パパを主人公にし、「子育てパパの存在をもっと当たり前！」を目指したシリーズ企画といたしました。

その一方で、「介護」に対する理解や支援は、「子育て」に比べればまだ追いついていないという認識をお持ちの方が少なくないように感じております。また、家族の誰かが介護が必要になった時、一番頼りにさ

れやすい人材は家族の中の女性、女性がいない場合には男性、という順番で考える方も少なくないように感じております。一人っ子の方や、家族の中に女性がいたとしても別の理由で時間の自由がきかない（例：家族と海外赴任中、自身が入院中など）、そのような場合には、性別問わず「介護」に向き合わねばならなくなるはずなのですが。。

このような人々の認識の傾向をどうすれば変えられるのかと考えていたところ、ふと気づいたのは、そも

そも日常会話で介護について話題にしようとする人の少なさでした。そこで、近畿会の会報を通して「介護」の話題を目にする機会を増やして、一人一人の介護に対する意識を「特別」から「当たり前」に近づけること、言いかえれば、「目にする→意識が変わる→行動が変わる」に役立てればと考え、この企画を進めることにいたしました。

### ライフイベントとしての介護の特徴

的確な表現が難しいのですが、「子育て」と「介護」を比較した場合、両者のイメージの違いを取り上げたいと思います。

「介護」は「子育て」に比べれば複雑なイメージを持ち合わせるライフイベントです。「子育て」が人生の始まりのイメージであるならば、「介護」は人生の終わりに近づくイメージの一面を持ち備えています。この一面が、日常生活で話題にしにくい、わかってはいるけれども考えるのはもう少しだけ先延ばししたい、という気持ちになるのだと思います。私自身も正直そう感じます。

ですので、本企画においては、多少なりとも「介護」のイメージ変革にも取り組めたらと思っています。

そのチャレンジの一環として、本企画のタイトルは「ライフサポーター KAI-GO! シリーズ」といたしました。介護する側もされる側も、

「行動する時には行動するぞ! GO!」という気持ちになって力が湧いてくるようにと願い、名付けてみました。ここでお伝えしたいことは、介護は一人でするものではなく、複数の立場の人たちがチームを組んで一緒に、「介護される人にとって幸せと思える時間、過ごしたい生活作り」という一つの目的に向かってGO!していく、そんな姿が望ましい姿なのではないかという一つの問いかけです。ケアマネジャー、介護施設、かかりつけ医、地域の自治体（地域包括支援センター他）、家族（リーダー、サブメンバー）。私にとって親の介護はまだ浅い経験ではありますが、上記のチームでやっていけると思えた時に、私自身気持ちが楽になりましたので、そんな経験が元になっています。

そんなこんなで、私の第1回の内容はとってもまじめな内容で、「全然イメージ変革できてない!」というご意見もあろうかと存じますが、今回は本企画の意図を皆様にお伝えすることが一番大事な目的です。産まれたての本企画、皆様のあたたかいお気持ちで育てていただきたく、よろしくお

願いいたします。

また、このテーマは、今は見たくない、読みたくないという気持ちの方もいらっしゃると思います。その場合は、どうぞこのページは飛ばして他の記事を楽しんでいただけましたら幸いです。

### 今後の内容について

今後は、介護の経験談や、参考情報の紹介などを予定しています。

「子育てパパシリーズ」も「ライフサポーター KAI-GO! シリーズ」も、1号ずつ完結する内容ですので、近畿C.P.Aニュースを手にとられた時に気軽にご覧ください。

この記事をお読みになった方が、親の介護（ひいては自分の介護）と言うテーマと一緒に話せる機会や仲間が少しでも増えることを願っております。

（注：執筆希望者募集中です！事務局か、お近くの近畿会役員やダイバーシティ推進委員会委員にお声がけください）

